

## 計画停電を考える

これからの電力のあり方も考えよう

開倫塾

塾長 林明夫

1 . 停電率が世界一低い日本では停電はとても珍しいが、普通の国ではかなり頻繁に停電する。「計画停電」とは、別の言い方をすれば電力の供給制限のことで、電力の供給量に不足が生じた場合には、どこの国でも電力会社により行われているごく普通のことだ。

2 . 電力の供給量が何らかの原因で減少した場合に、今までと全く同じように電力を供給することができないので、供給する場所を特定したり供給する時間を変えたりしながら、少ない電力を最大限に活用するためだ。

3 . ところで、電力会社が計画停電をすることは普通の国では頻繁に行われているが、今回の東京電力の計画停電のように事前に発表が行われることは非常に珍しい。おそらく世界では初めてのこともかもしれない。

停電を事前に発表すれば、停電を利用して強盗などの犯罪が発生する危険性が激増するからだ。また、誰でも停電は困るので、停電を発表した瞬間に抗議の電話が殺到するからだ。被災地などは例外としても、東京の区などのように停電しない地域を予め公表した場合には、なぜその地域だけかという抗議が電力会社に来るからだ。

4 . 今回の東京電力の「計画停電」の事前発表、および首都機能を維持するためと被災地の生活を守るための停電のない地域の事前発表は、世界中がびっくりするくらい親切この上ない発表だと私は考える。

普通の国なら停電は突然始まり、どのくらい停電しているか、また、どの地域が停電しているかなどが発表されることもない。

停電は困るが、東京電力はよくやっていると思う。

5 . 今回は、経済や政治の中心地である東京都心のほとんどの区と被災地である茨城県を最優先して、その地域には停電はなく、計画停電もない。計画停電のない地域では、その分しっかりと仕事や活動をしてもらいたい。また、計画停電の実施されている他地域の大きな犠牲のもとに電力が供給されていることをよく考え、停電のない地域こそ徹底的な「節電」を行うことが人間として大切だ。

- 6 . 日本の原子力発電所の現状について調べてみよう。新潟県柏崎刈羽原子力発電所の 7 機のうち 3 機はほとんど整備が完了して、あとは認可を待つだけのようだ。この 3 機は合計で福島原発以上の電力が供給可能なので、計画停電対策には柏崎原発の活用が一番かもしれない。ただ、日本は、今後、原子力発電は電力源として利用しないという考えをマスコミや政府、自治体、国民がもつようになったら話は別だ。
- 7 . そこで、原子力発電に代え、電力をどのように確保するかを国を挙げて早急に議論しなければならない。地球の負荷を最小限とする新型の火力発電の開発と膨大な数の風力発電装置等を早急に作らなければならない。
- 8 . 同時に、個人、家庭、学校、役所、企業、ありとあらゆる単位で電力を最小限に使う工夫をすることも大事だ。安全と安心さえ確保できれば、多少、今までと比べ暗くても、また、不便でもよいと考えれば、日本国中の電力消費量は減る。
- 9 . 電力を最も消費する時期と重なる夏の甲子園での全国高校野球大会をどうするかなども、早めに議論しておいたほうがよい。
- 10 . 個人、家庭、企業、社会などすべての行動のクリーン化を徹底的に推し進め、この電力危機を乗り切る時代に日本は入ったと考える。
- 11 . 技術的には、東日本・西日本の電力周波数の統一は一日も早く着手すべき課題。
- 12 . 電力会社のあり方、例えば発電会社と送電会社の分離、また、学校には公立学校と私立学校とがあるように、電力会社の更なる民営化を緩やかに進め、複数の企業に経営能力を競わせることも積極的に検討すべきだ。一つの電力会社が何から何までやるのではなく、例えば東芝や日立がオペレーションを担当してもよいと考える。10 年後の日本の電気やエネルギーのあるべき姿を検討することにもすぐに手を着けたい。

以上

2011 年 3 月 24 日 林明夫記